

SPEED'98～EXTEND2010の取組み概要

化学物質の内分泌かく乱作用については、これまでの対応の中で様々な調査研究や試験法開発などが進められてきましたが、その影響についてなお未解明の部分も多く、環境省として引き続き対応を進めるべき重要な課題と考えています。

SPEED'98の取組み(1998年～2005年3月)

- ・優先取組み65物質のリストアップ
- 1. 化学物質の環境実態調査及び野生生物の影響実態調査
- 2. 生態系への影響評価のための魚類を用いた試験
- 3. 人の健康への影響評価のための哺乳類を用いた試験
- 4. 国際的な協力

これらの取組みの結果、魚類(メダカ)に対し内分泌かく乱作用を有することが推察される物質が確認されました。

EXTEND2005の取組み(2005年3月～2010年6月)

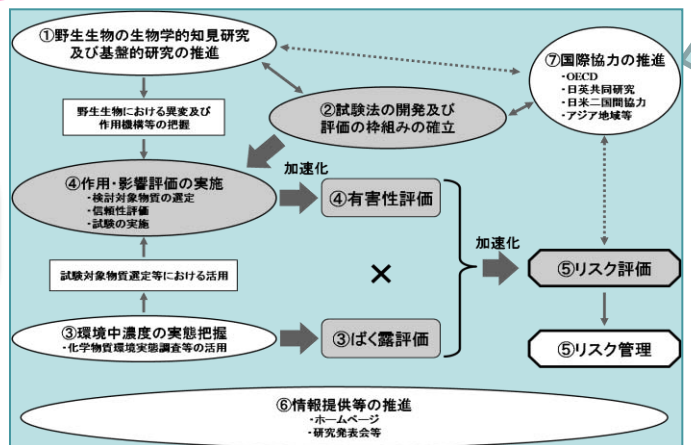
1. 野生生物の観察
2. 環境中濃度の実態把握及びばく露の測定
3. 基盤的研究の推進
4. 影響評価
5. リスク評価
6. リスク管理
7. 情報提供とリスクコミュニケーション等の推進

これらの取組みの結果、内分泌かく乱作用に関する基盤的な研究や、国際的な協力の下で魚類等の生物を対象とする試験法の開発が推進されました。

EXTEND2010の取組み(2010年7月～)

1. 野生生物の生物学的知見研究及び基礎的研究の推進
2. 試験法の開発及び評価の枠組みの確立
3. 環境中の濃度の実態把握及びばく露の評価
4. 作用・影響評価の実施
5. リスク評価及びリスク管理
6. 情報提供等の推進
7. 国際協力の推進

EXTEND2010における取組みの概念図



EXTEND2010では、化学物質の内分泌かく乱作用に伴う環境リスクを適切に評価し、必要に応じ管理していくことを目標として、評価手法の確立と評価の実施を加速化することを、ねらいとしています。

環境省では、化学物質が環境を經由して人の健康や生態系に及ぼす影響を防止する観点から、引き続き生態系への影響について優先的に取り組み、試験評価手法の確立と評価の実施を重点的に進めるとともに、関係省庁における役割分担を踏まえながら環境中の化学物質が人の健康に及ぼすリスクについても視野に入れて検討を進めていく予定です。

また、OECDや、米国や英国との二国間協力などを通じて試験法や評価手法の確立に引き続き積極的に協力するとともに、諸外国の動向やOECD等の国際的な検討の動向に常に留意し、それらの成果を最大限活用しつつ進めていく予定です。